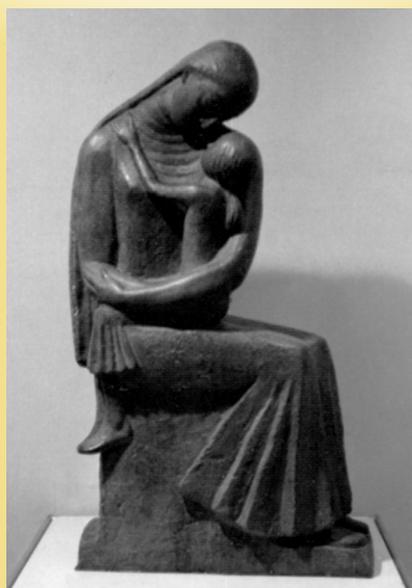


こすもす文庫 ⑩

子育ての原理

愛を食べて 生きるもの



金子典義

表紙写真 一 彫刻「母と子」



子育ての原理
愛を食べて
生きるもの

金子典義



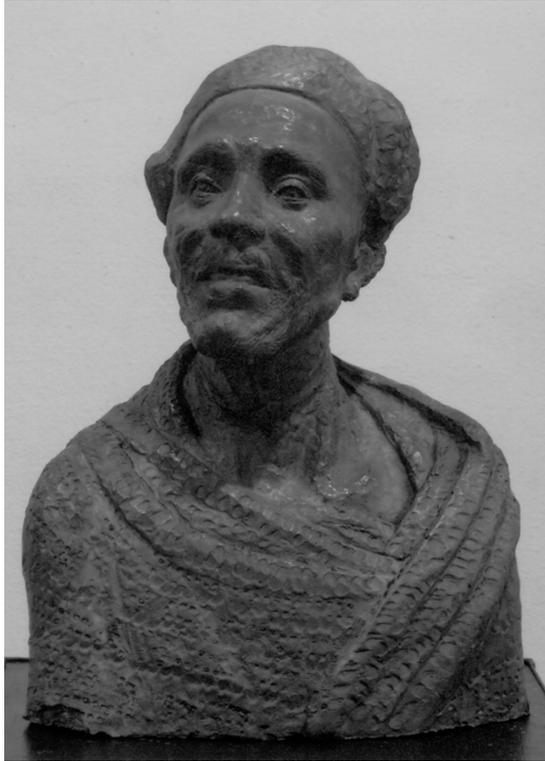
ピエタ



前頁へ



次頁へ



アフリカの老人

まえがき

小学校の教育に携わった1年目から退職までの36年間、私にとって最も重要で最も困難だと感じた教育課題は、「モラルの育成」ということでした。これは単に「しつけ」というようなものではありません。いわゆる「指導」によって達成されるものでもありません。学校教育だけで達成されるものでもありません。

戦後、非行の第一のピーク、第二のピーク、第三のピークといわれた時代がありました。非行の形態も多様になってきております。今日は、いじめによって自殺に追い込まれる子が全国で幾人も出て、社会問題にもなっております。各種の非行、その一つのあらわれとしての「いじめ」、これらの根底に何かあるのか、何が原因で子どもたちはそうせざるを得ないのか。この点について私は、「愛情の不足」という観点で捉えております。

ほとんどの学校では、毎月、「学校だより」を保護者あてに発行して、校長の考えや学校の行事予定などをお知らせしておりますが、私は校長をしておりまして6年間、大方、詩のような形で子育てについての考えを書いてきました。詩のような形にしたのには二つの理由がありました。一つは、今日、だれでも、読まなければならないものが多すぎて、「学校だより」も、びっしり書いてあると読んでもらえないだろう、したがって、言葉をできるだけ切り詰めて、紙面に余白を多く空けて読みやすくしようと思ったこと。もう一つは、理性に訴える説明ではなく、感情に働きかけることによって、保護者の潜在意識の中にある本来の子育て観を覚醒してもらいたいと思ったこと。それには詩のような形がよいと考えたわけです。この冊子にはそれらの中から収録しました。

6年間にわたって書きましたが、内容的にはごく単純で、どれをとっても同じことを繰り返し言っているだけなのですが、保護者の方から、毎月一回それを読むことで、子育てについて何かヒントを得ることができたという声も聞いております。「モラルの育成」といい、「いじめの根絶」といい、もとをただせば、その子の親の心次第なのだと思われてなりません。子どもたちの幸せのため、若いお母さん方に読んでいただければ幸いです。

2006（平成18）年8月22日

著者 金子典義



目次

愛を食べて生きるもの	8
ほめことば	10
心豊かな子ども時代を	11
子どもの孤独の時間	12
非行	14
あなたが子どもだった頃を思い出して下さい	16
子どもは大人の感情がとても気になります	18
愛は形がない	20
親と子の関係	22
ほめよ たたえよ	25
内部からよさが現れる	26
子どもは自分がされたように人にする	27
あなたは誰を責めますか	28
子育ての原理	30
非行の原因	32
呼び水	34
わが子が服を汚して帰ってきたとき	36
子どもが好きなこと	37
学校教育の基盤となるもの	38
子どもの内なる願い	40
認めたものが存在に入る	41
子どもの時間は黄金の時間	42
待ちましょう	43
敬意を払えばよさが現れる	44
子どもの生活リズム	45
依存と自立 ーその1ー	46
依存と自立 ーその2ー	47
子どものいじめは いつから始まるか	48

お手伝い	49
大正	50
共鳴現象	51
よい子だね	53
誉めことばに誘われて	54
甘えの足りない子どもがいます	55
言葉をかけられなかった赤ちゃんたち	56
こんなおじいさんがおりました	57
子どもの絵	58
母性本能	59
だだをこねるぼく	60
すずめのおやこ	61
信頼と愛情の継承	62
一人の母は百人の教師にまさるといわれます	63
子どもは日々成長していきます	64
著者プロフィール	65

金子典義作 彫刻目次

母と子	1	音楽を聴く人	29
ピエタ	3	夢を食べて生きる人(1)	31
アフリカの老人	4	髪の毛の長い女	33
吾が子を抱く女	9	何か心に秘めた女	35
夢を食べて生きる人(4)	13	若い人	39
鳥を抱く女	15	夢を食べて生きる人(2)	39
わが子	17	男と女I	44
鳥盗人	19	男と女II	45
両手を広げる人	21	夢を食べて生きる人(3)	46
二人	23	自己愛	51
男	24	髪の毛の長い女	52
帽子の男	28		

愛を食べて生きるもの

病める心を 癒すもの
怒りを 鎮めるもの
悲しみを やわらげるもの
耐え忍ぶもの
勇気をふるい起こさせるもの
希望の泉

それは 愛

子どもは 日々に愛を食べて生きる
愛のない日々は 悲しく空しい
愛があれば 子どもは安心し 勇気をもって日々にいそしむ

愛されて育てられた子は 幸福な心を持っている
感謝の心をもっている
自分と人々を大切にする

愛されずに育った子は 不安な心を持っている
憎悪の心を持っている ものごとを否定的に考える
不幸な子である

不幸な子は 正しく生きる力が湧いてこない
未来が 暗く 悲しく思われる

愛されて 幸福に育った子は 正しく生きる力が湧いてくる
夢がひろがる 未来が明るく見えてくる
人々に自らの愛を与えようとする

子どもは 日々に愛をむさぼり食べて たくましく生きる

わがことを先にして
子どもへの愛を出しおしみするものには
大いなる後悔が 待っている



吾が子を抱く女

ほめことば

ほめことばは どこへ届いて どんな作用をするのでしょうか

ほめことばは

心の深いところ 潜在意識に届いて 感動をおこさせ
その人を 心の奥からほこらしく 幸福な気分にし
自信と やる気と 生きる意欲と 勇気とを湧きたたせます

けなすことばは

心の深いところをぐさりと刺して
恨みと 憎しみと 復讐の感情をもえあがらせ
また 悲観させ やる気をなくさせ自虐的にさせます

子どもを だめにしたければ

けなしたり 叱ったり 馬鹿にしたり
子どもの好意を受け容れないで
無視したりすればよい

幸福な子にし 幸福な人生を歩ませたいと思ったなら
誉めてあげたり 感謝してあげたり
共に喜んであげたりすればよい
毎日 そうしてあげれば
潜在意識の中に 幸福な感情ができあがって
善良で 幸福な人になるでしょう

心豊かな子ども時代を

「おかあさん、ただいま！」と帰ってきて
「おかえりなさい」と迎えてくれる
心豊かな子ども時代

誰もいない家に帰り 鍵をあけて だまって入る
あたりを見回す 誰もいない
静かだ
子どもは空虚で寂しい

空虚で寂しくても
子どもは自分の気持ちを
親に言うことはできない

子どもは思いやりが深いから
庇護されなければ生きられないから
我慢をしている

子ども時代は 一時だ
黄金の一時だ
この一時 幸せであったものは
生涯の宝をもつ

子どもの孤独の時間

子どもが何かに集中しているとき
子どもの心の中では 何が起きているのでしょうか

知識と知識が結びつき
概念と概念が繋がり
ふっとインスピレーションがやってきて

あっ！ そうだ
あっ！ そうだったのか
あっ こうしよう
そうだ この方がいい
というように 心の中に ふつふつと
思いが巡っているのです

こうして さまざまのことに対する
理解と探求が深まります

大人から見て 一見つまらなそうなことの中にも
子どもは新鮮な驚きをもって
新しい世界を発見し
新しい意味を見い出しているのです

子どもが集中しているとき 声をかけてはなりません
かすかに来たインスピレーションが消えてしまいます

静かに!!
静かに!!

子どもの孤独の時間を大切に
守ってあげましょう

子どもは 孤独の時間に自己に向き合い
自己を発見し 他者を発見していきます

孤独の時間に成長しているのです

孤独の時間に将来の自分の原型をつくっているのです



夢を食べて生きる人 (4)

非行

いつか テレビで見ました
死んだわが子を 何日も手離すことができなくて
ぶら下げて歩いている母猿を見ました
黒く干からびてしまっても 手離すことができなくて
ぶら下げて歩いていました

人間も 原始の時代には
これほどの母性本能があったのだろうか
すさまじい 母性本能
悲しい 母性本能
いとおいしい 母性本能

青少年の非行は 戦後第三のピークといわれて
もう 10年以上になります
青少年は なぜ非行が止まないのだろうか
彼らが 心の奥で切に求めているものは
本当は何なのだろうか
何が 彼らを非行にはしらせるのだろうか

子どもは 親の愛を求めて止まない

愛が 満たされないと
憎悪 となり
反逆 となり
自虐 となり

自棄 となり

虚無 となり

ここから 非行がはじまります

心の幸福な子は 非行をしない

非行をする子は 心の不幸な子ばかりです

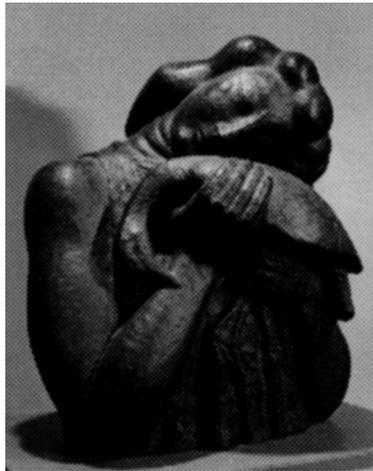
子どもの心の中の 愛の空白を うめて下さい

中学生になってからでは おそいのです

小さい乳幼児期から

ずっとずっと満たし続けて下さい

親でなければ 満たすことができないから



鳥を抱く女

あなたが 子どもだった頃を 思い出して下さい

あなたが 子どもだったころ
どんなときに うれしかったでしょう
どんなときに 悲しかったでしょう
どんなときに さびしかったでしょう
どんなときに 不安だったでしょう

あなたが 子どもだったころ
どんなときに 涙が頬を流れたでしょう
どんなときに 怒りがこみ上げてきたでしょう

あなたが 子どもだったころ
どんなときに 親の愛を感じたでしょう
どんなときに 親切心が湧いてきたでしょう
どんなときに 素直な心になれたでしょう

あなたが 子どもだったころ
どんなときに あたりが生き生きと見えたでしょう
どんなときに 何を見ても 何を聞いても 虚しく思えたでしょう
どんなときに やる気が出てきたでしょう
どんなときに 自信が湧いてきたでしょう
どんなときに ほこり高い気持ちになれたでしょう

あなたが 子どもだったころ
どんなときに ……………
…………… ……………

.....

ここに 子育ての答えは すべて含まれているでしょう

そして

あなたが感じたところまでの配慮ができるでしょう



わが子

子どもは大人の感情が とても気になります

子どもは 大人の感情が とても気になります

今日は 機嫌がいいか 悪いか
怒っているか いないか
優しいか 恐いか
親切か 意地悪か
とても 気になります

弱い立場にある者は、強い立場にある者のご機嫌が
とても気になります

強い者のご機嫌を そこなわないように
自分の行動を 決めているのです
身を守るために 本能的に そうするのです
そのように育ってきた子は 強い者がいなくなったら
今度は 自分勝手にし始めます
自分なりの正しい価値観や行動基準が育っていないから
道徳性が育っていないから

子どもは 大人の感情の影響を日々受けます

大人が 我を立てれば 子も我が強くなります
駄々をこねて 我を張らなければ 自分の要求が満たされないから
生きる知恵で そうするのです

おとなしい子は 大人の私の強さによって
人格が 破壊されてしまいます

大人が明るければ 子も明るくなります
大人が暗ければ 子も暗くなります
大人がやさしければ 子もやさしくなります

大人が愛と感謝の幸福な感情に満ちていれば
子どもは 安心して友だちと仲良く遊び
安心して 勉学にいそしみます

大人が 自分の感情を陶冶することが
そのまま 子どもの教育になっているのです



鳥盗人

愛は形がない

愛は 形がない

ことばをかけることのなかに

愛はこもっています

面倒をみる行為の中に

愛はこもっています

干渉しないことのなかに

愛はこもっています

待ってあげることの中に

愛はこもっています

いらいらを我慢することの中に

愛はこもっています

よいところを見つけて 誉めてあげることの中に

愛はこもっています

「ありがとう」といってあげる中に

愛はこもっています

「疲れたでしょう」といってあげる中に

愛はこもっています

あたりまえの行い中に

その子の努力を認め

工夫を認め

良さを認めて

喜んであげましょう

感謝してあげましょう

欠点を取り沙汰しないことの中に

愛はこもっています

黙っていてあげることの中に

愛はこもっています

このようにして

よい子に育つでしょう



両手を拡げる人

親と子の関係

先日、ちょっと変わった学園を訪ねて、そこの先生のお話を伺いました。

その子どもたちは、先天的な障害児ではありません。普通の子どもたちですが、心が病んでいるのだそうです。

体には、親の折檻で受けた傷跡や火傷のあとのある子が幾人もいるそうです。生まれてきたことが、祝福されていないのだそうです。

この子たちにとって家庭は、地獄でした。今は、学園に入っているから、家庭の地獄から逃れています。生まれて以来痛めつけられた心の痛手は、今も深く続いていて、人に対して信頼感や親しみを持つことが出来ないそうです。

わずか10年前後の人生の中で、普通の人の一生の苦勞以上の苦しみを嘗めているのだそうです。

子どもは、生育のその時期その時期に満たされなければならないものがあると思われます。しかも、親でなければ満たすことができないものがあると思われます。動物の子も一人前になるまでは、親が本能的に子を愛し、気配りをして育てるように、人の子もその必要があると思われます。

心を病んでいる子は、

親の愛が足りなかつた子だと言えるでしょう。

非行をする子も 心が病んでいるのでしょう。

心が病んでいる子は 勉強が手につきません。

勉強よりも 何十倍も切実な悩みを抱えているからです。

しかし、

自分一人では、その悩みは解決出来ません。

なぜなら、

親と子の関係のあり方が原因だからです。

相手があることだからです。

親が変わってくれなければ、その悩みは解決されず、

子は変わることが出来ません。

他人には、容易に癒すことはできません。

こんな子が、幾人もその学園にいることに驚きました。



二人



男

ほめよ たたえよ

ほめよ たたえよ 子どもの尊いいのちの営みを
ほめよ たたえよ 子どもの描く美しい夢を
ほめよ たたえよ 子どものやさしい心づかいを

ほめよ たたえよ 子どもの小さな日々の努力を
ほめよ たたえよ 子どもの小さな日々の勇気を
ほめよ たたえよ 子どもの小さな日々のがまんを

ほめよ たたえよ 子どもの生き生きとした創造的活動を
ほめよ たたえよ 子どもの日々の進歩を
ほめよ たたえよ 子どもの生き生きとした立居振舞いを

子どもは 今を 生きている
子どもは 今が チャンス

ほめよ たたえよ 感謝せよ

植物の芽が

陽の光へ向かって伸びるように

子どもも

温かく明るい光のくる方へ 伸びようとする

内部からよさが現われる

現象の子は 変化します

日々 内部から よさが現われてきて
変化します

愛をもって 育てられれば

心が満たされ 愛を学ぶでしょう

礼をもって 育てられれば

人の尊厳性に気づき 礼を学ぶでしょう

貴いものとして 育てられれば

自他を 大切にするでしょう

その子は 本来のよさを発揮するでしょう

子の内部魂のよさが

現象の子に 現われてきたとき

自他ともに 喜びがあるでしょう

子どもは自分がされたように人にする

子どもにとっては すべてが学習ですから
自分がされたことを 身につけていきます

叩かれて 育てられた子は
叩く子になり 叩く親になるでしょう
つねられて 育てられた子は
つねる子になり つねる親になるでしょう
ののしられて 育てられた子は
ののしる子になり ののしる親になるでしょう
履きもので叩かれて育てられた子は
履きもので叩く子になり 履きもので叩く親になるでしょう
ご飯をぬかれた子は
子を叱るに ご飯をぬく親になるでしょう

冬の朝 靴を温めてもらった子は
靴を温めてあげる親になるでしょう
おねしょをしても 叱られなかった子は
わが子のおねしょを やさしく始末する親になるでしょう

善業も悪業も 大人から子どもへと受け継がれ
また その子どもへと受け継がれていくでしょう

そして また 大人たちへ 喜びや悩みとなって
報いはかえってくるでしょう

あなたは誰を責めますか

子どもたちの間に いじめがあります

もしも わが子が誰かに迷惑をかけたとき

もしも わが子が誰かに悪いことをしたとき

あなたは誰を責めますか

もしも あなたが 相手の子を責めるならば

子どもさんは 自分を正当化して 反省しないでしょう

もしも あなたが わが子を責めるならば

子どもさんは 悪いことを繰り返えすでしょう

もしも あなたが ご自分を責めるならば

子どもさんは 悪いことができなくなるでしょう



帽子の男



音楽を聴く人

子育ての原理

子育ての原理は
本当は 簡単なこと

親の自然な愛情で
子どもの心を満たすこと

ただ これだけのこと

このほかのことは 枝葉末節

親の自然な愛情から
百千の気配り 百千の働きが
自ずから行われれば
それが
子どもを幸福な感情の子に育てるでしょう

幸福な感情の子は
心が満ち足りて
やさしく がまん強く
聞き分けがよく 威張らず
卑屈でなく 善悪の判断がよくできるでしょう

親が 自分の都合を優先して
子への労を厭えば
子は 親の薄情を感じるでしょう

親の薄情は 子どもの期待を 裏切り

失望感を深め

正しく生きる意欲を 失わせるでしょう

正しく生きる意欲を失った子は

「困った子」になるでしょう

子どもが いちばん必要としているものは

親の愛情ですから

物やお金など 愛情以外のもので

子どもの心を 満たそうとしても 不可能でしょう



夢を食べて生きる人 (1)

非行の原因

非行は いまや 中学生だけのものではないという

小学生にも及び

高校生にも及んでいるという

しかも することが幼稚化しているという

なぜなのか

零歳の子には零歳の欲求があり	その欲求が満たされる権利がある
一歳の子には一歳の欲求があり	その欲求が満たされる権利がある
二歳の子には二歳の欲求があり	その欲求が満たされる権利がある
三歳の子には三歳の欲求があり	その欲求が満たされる権利がある
四歳の子には四歳の欲求があり	その欲求が満たされる権利がある
五歳の子には五歳の欲求があり	その欲求が満たされる権利がある
六歳の子には六歳の欲求があり	その欲求が満たされる権利がある

こうした欲求の各段階を 十分に満たされて

満足して卒業してきた子は 豊かで健全な心をもっている

このような子は良識が高く心遣いがよく 非行に走ることはない

欲求の各段階を越えさせてもらえなかった子は不幸である

愛されることが足りなかった子は不幸である

大人の都合に従わされ 自分の欲求が拒否され 無視され

失望感や 寂しさや 不安や 怒りや 憎悪が

心の中に渦巻いている子は不幸である

そのやり場のない満たされなぬ思いの実態が何であるか
当の子どもにはわからない

でも 無性に反抗したくなる いじめたくなる 破壊したくなる
盗みたくなる 殺したくなる

四歳の欲求が満たされなかった子は 高校生になっても
四歳の欲求を満たそうとしてもがいている

四歳の時期を過ぎてから 四歳の欲求を満たすことは容易ではない

子どもの非行は ひとえに だれかの薄情の結果である
だれかの自己中心的な心の結果である

愛に飢えている子は 落ち着きがなくモラルが低い

愛の絆が切れた子は 糸の切れた凧のように当てもなくさまよう



髪長い女

呼び水

井戸水をポンプで汲み上げるのに
水が出ないときには呼び水をしました

井戸の水が管の途中まで上がってきていても
途中から上までが空になっては
ポンプをいくら上げ下げしても
スコッ スコッ というだけで 水は出てきませんでした

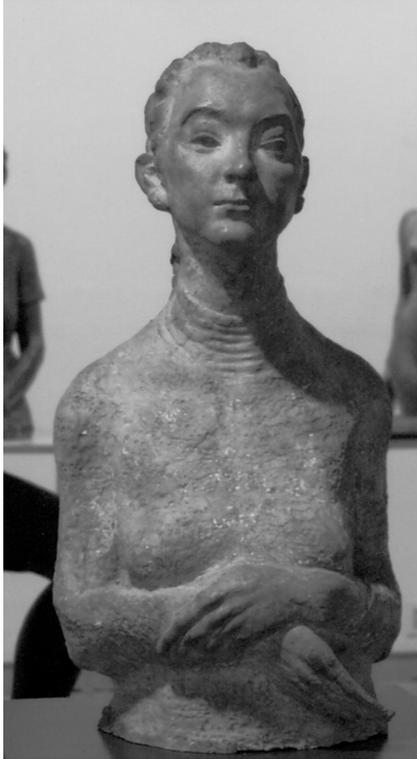
こんなときは バケツ一杯の水を注ぎ込んで 空の部分を満たしてから
ポンプを上げ下げすれば 水はいくらでも汲み上げることができました

子どもの心に バケツ一杯の呼び水を注いでみましょう

呼び水は
受容 共感 ほめことば 感謝のことば ねぎらいのことば
やさしいことば 愛のことば 許しのことば
真心にふれることば

呼び水は また
子どもの願いを叶えてあげること
協力してあげること
一緒にやってあげること
楽しいことや喜ぶことをさせてあげること

呼び水に誘われて
いきいきとした子どもの姿が呼び出されてくるでしょう
生まれながらの個性や資質が呼び出されてくるでしょう



何か心に秘めた女

わが子が服を汚して帰ってきたとき

子どもさんが だろんこ遊びをして
お洋服を汚して帰ってきたとき
あなたは 何とおっしゃるでしょうか

「よく いっぱい あそんできたわね
たのしかった？ だれとあそんだの？
よかったね
また いっぱい あそんでおいで」

とおっしゃるでしょうか

それとも
「どうして そんなに よごしてきたの！
なんかい いったら わかるの！
せんたく するものの みにもなってよ！」

とおっしゃるでしょうか

子どもが好きなこと

子どもが好きなこと

お母さんの笑顔
お母さんが作ってくれたごはん
お父さんの笑顔
お父さんと遊ぶこと

子どもが好きなこと

ともだちと遊ぶこと
なにかを作ること
小さな冒険をすること
新しい体験をすること
なにかを知ること
なにかがわかること
なにかができるようになること

子どもが好きなこと

誰かの役に立つこと
誰かに喜んでもらうこと
誰かに感謝されること
誰かにほめられること

学校教育の基盤となるもの

学力を高めること
個性を伸ばすこと
生み出しつくり出す力を育てること
自分への信頼感を高めること
いろいろな問題をよりよく解決する能力を育てること
皆と仲良く協力する心を育てること
人々のために奉仕するボランティアの心を育てること

どれも学校教育で努力している大切な目標ですが
これらの能力が育つためには
心の底にその基盤となるものが必要なのです

その基盤とは

心情の満足 愛情の満足です
甘えたい時期に
十分に甘えさせてもらえなかった子は
この基盤が弱いのです
心の安定と充実が足りないのです
他者への信頼の心が弱く不安が強いのです

そのような子は利他的で 善悪の判断がしっかりしていません

もしも 甘えの足りない子がいたら
今から 埋め合わせをしてあげましょう

毎日まいにち
「だいすきよ」「あなたがいてくれて ありがとう」

と言ってあげましょう
手をにぎってあげましょう
抱きしめてあげましょう
こまごまと面倒を見てあげましょう
どんなに小さなことでも
ほめてあげましょう
喜んであげましょう
感動してあげましょう
感謝してあげましょう
話を聞いてあげましょう
指示・命令や禁止をしないで その子の意欲がよい方に
生かされるように
知恵と力を貸してあげましょう

こうして愛情の満足を 十分に実感させてあげれば
どの子も幸福で素晴らしい子になることは
明らかです



若い人



夢を食べて生きる人 (2)

子どもの内なる願い

子どもは 好奇心に 溢れている
何でもやってみたい
何でも見てみたい

子どもは じっとしてられない
わずかな時間にも何かに熱中し
次の瞬間には もう別なことをしている

なぜ 子どもは
老人のように静かにじっとしてはられないのだろう
子どもを内から せき立てているものは
何なのだろう
きっと
若々しいのちが そうさせるのだろう
いのちの本質が
活動したい 進歩したい 成長したい
発展したいという内からの欲求となって
押し出してくるからなのだろう

それならば
困難をのりこえて達成するような
内なるいのちの願いを達成するような
本当の喜びを 体験させてあげましょう

浅はかな喜びでなく
進歩と発展の充実からくる真の喜びを
体験させてあげるために力を尽くしてあげましょう

認めたものが存在に入る

「霧の都ロンドン」と
詩人が詩に詠んだときから
ロンドンの霧はひろく人々に意識されるように
なったといわれます

同じように
子どもが毎日している あたりまえのように見える 行為の中にも
そのことの価値を だれかが認めてあげるならば
それが すばらしいものとして意識されて
よろこんで その方向に 更に伸びようとするでしょう

どんなに小さなことでも
子どものよいところを発見し
認めてあげるならば
どの子も もっともっと自分のよさを発揮するでしょう

一見 失敗と見えることも 失敗と見ずに
成功につなげていくように 解釈をしてあげるならば

どの子も 内に秘めた本当のよさを
もっともっと発揮するでしょう

子どものよいところを
たくさんたくさん見つけてあげましょう

子どもの時間は黄金の時間

子どもたちが、夏休み中、豊かな体験をして、ぐんと成長して学校へ戻ってきました。

先日、テレビで、川で漁をして80歳にもなる方のお話がありました。

『子どもの頃に、川で魚をとって遊んだことが楽しくて、それでも、川で漁をしとるんじゃろね。

川を見ていると心が和むし、何ともいえん安らぎがあるね。』

また、建築科の教授の方はこんなお話をされました。

『戦争中、小学生の私は、田舎の家に疎開していました。

その家の間取りや家の造りに、とても興味があつて、今でも、正確に図面にかくことができると思います。

この少年時代の興味から、私は自然に建築の方面へ進みました。』

子どもの時代に興味をもったことは、いつまでも心に残るようです。

子どもは、ことばでは言わなくても、心の中では、日々、何かを新鮮に感じているのでしょう。

子どもは、わずかの時間でも、我を忘れて何かに集中します。

この集中している時間が、黄金の時間といえるでしょう。

このとき、心の奥深いところで、何かを感じたり発見したり、創造したりしているのでしょう。

待ちましょう

待ちましょう

忍耐強く待ちましょう

せっかちになってはいけません

子どもがその気になるまで 待ちましょう

子どもがいやがるのに 無理矢理やらせてはなりません
無理矢理やらせると

子どもは敗北感を味わい

自己への信頼を失い

無理矢理やらせた人を恨み

うまくいかなければ その人のせいにします

これではその子の人間性がつぶれてしまいます

何気ない素振りでヒントを与え 情報を与え

子どもがやりたくなるように 興味が持てるように

誘導してあげましょう

そして待ちましょう

種を蒔いて芽が出るのを待つように

水と肥料を適度に与えて待つように

自らの力でその子らしく育つのを待ちましょう

敬意を払えばよさが現れる

子どもは
可能性の宝庫です

信頼され 敬意を払われ よさを認めてもらえるならば
子どもは 日々 その資質・能力を発揮するでしょう

内なるよさを引き出す秘訣は

子どもの内部魂の尊厳性に たえず敬意を払うことでしょう

そして

やさしいことば ねぎらいのことば

感謝のことば ほめことば

こちよいお世話 心強い協力 慈愛の見守りが

子どもを更により子に育てるでしょう



男と女 I

子どもの生活リズム

子どもの生活リズムをつくって、それを維持してあげるのは保護者の役目だと思います。

朝は一定の時刻に起きて、顔を洗い、朝食を食べて、歯を磨き、自分で着替えて学校に行き、夕方は家族で食事をし、お風呂に入り、歯をすみずみまで磨いて、一定の時刻に寝る。

こういった、まったく平凡なことがとても大切です。

近年は、朝食を食べて来ない子がおります。理由はいろいろです。お母さんがまだ寝ていて朝ごはんが出来ていなかったとか、前の晩おそくまでテレビを見ていて寝坊したとか、あるいは、食べなくなかったなどがあります。勉強するには、体力と精神力が必要なわけですが、こんな子は、朝からあくびをし、勉強に身が入りません。勉強が面倒になると、頭が痛いといって、保健室へエスケープしてしまう子もいます。

子どもの時代には、自然のリズムに心身が合うように、生活リズムを保ってあげる必要があると思います。こうした家庭での生活リズムが学校教育の支えになって、充実した学習が可能になると思いますし、道徳性も育っていくと思います。

生活リズムの乱れは行動の乱れにつながっていくことがいわれています。



依存と自立 — その1 —

子どもは 小さいときは すべてを親に依存しています
親にとっても 依存してもらうことが喜びです

依存と保護の関係の中で

親子の絆は しっかりと強いものになっていきます

子どもは親に依存しつつも

親に限りない喜びを与えています

「子どもは5才までに親孝行をすませている」といわれます

じゅうぶんに依存し

じゅうぶんに親孝行をさせてもらった子は

時機がくれば

自然に自立していきます



夢を食べて生きる人 (3)



依存と自立 — その2 —

ちいさい子を 早く自立させようとしてはなりません
「うちの子は 夕方おそくまで 一人でお留守番ができます」などと
安心してはなりません

日が暮れるとき 一人でお留守番をしている子は
どんなに心細いことでしょう
その気持を 何とっていいかわからないので
言葉では言わないだけでも知れません

ちいさい子は親にすべてを依存しています
すべてを依存して 甘えたいときに甘えさせてもらい
十分にお世話をしてもらうことで 依存したい気持が満たされます

依存したい気持を十分に満たしてもらえなかった子は
大きくなってもまだ依存したくて甘えたくて 自立できません

自立できない子は
落ち着きがなく
心の安定がなく
わがままで
ききわけのない子になってしまいます
そして 勉強にも身が入りません

ちいさい子は 親に依存しつつ 少しずつ自立していきます
満足した分だけ自立していきます

早く世話のかからない子にしよう などと思っはなりません

子どものいじめは いつから始まるか

0歳の子は いじめを するだろうか

1歳の子は いじめを するだろうか

2歳の子は いじめを するだろうか

3歳の子は いじめを するだろうか

いじめたい心は いつから芽生えるのだろうか

それよりも…… いじめたい心は なぜ起こるのだろうか

心の幸福な子は 人をいじめたいだろうか

親から十分に愛されて 満足感のある子は 人をいじめたいだろうか

恨みの心は 晴らしたい

怒りは 誰かにぶつけない

憎しみは 誰かを傷つけ 殺したい

悲しみは 癒されたい

願いや望みや自分の正義を拒否された失望感や悲しみは

正しく生きる意欲を失わせ 自暴自棄にさせる

子の淋しさは 誰かが愛してくれない限り

癒すことができない

子どもの心を 乱してしまうのは誰か

子どもの心を 調律してくれるのは誰か

子どもの心に 悩みをつくってしまうのは誰か

子どもの悩みを 癒してくれるのは誰か

子どもの性格を つくるのは誰か

お手伝い

労働は 五感をきたえ 感性をきたえます
労働は 心配りをきたえ 思いやりの心をきたえ
創造性をきたえます

労働は 横着を打ち破り 正直を助長します
労働を 厭うものは 他を労させて
われを楽させようとしませす

子どもには お手伝いをさせましょう
お手伝いをすることで 生活の技術を習得し
思いやりの心が育ちます

お手伝いをさせて 結果が未熟でも
不満を言っはなりません
心から喜び 感謝しなければなりません
これは 鉄則です

喜ばれ感謝された子は
また やってあげたくなり
もっとじょうずにやってあげたくなります

こうして徳のある子に育ちます

大正

大正 なんとよい名前の学校でしょう
 なんと美しい名前の学校でしょう

大正小学校は 大正5年に誕生しました
大正の元号が定められた趣旨と同じく
ここに大いなる正義が行われるようにとの
願いをこめて創立されたに違いありません

では 正義を求める心は どのようにして育つのでしょうか

美しいものを見 美しいものをつくる間に育ちます
美しい行いを見 美しい行いをして育ちます
正しい行いを見 正しい行いをして育ちます
いのちの尊さを感じ いのちを守ることで育ちます
愛されていると感じ 愛することで育ちます
悲しみを知ることで育ちます
喜びを知ることで育ちます
感動することで育ちます
価値あるものに目覚めて育ちます

自分の都合だけの正義でなく
だれかのためになる正義を
みんなのためになる正義を
育てていきましょう

共鳴現象

親の心が 鳴りひびけば
子の心の奥深くに眠っていたものが目覚めて
親のひびきに合わせて ひびき出すでしょう

子の奥深くに眠っている よい資質に向かって
音を発すれば
よい資質が目覚めて 鳴りひびくでしょう

親子の美しいひびき合いの中に
喜びがあるでしょう

親のひびきが 変われば
子のひびきも 自然に変わるでしょう

子どもがしていること 言っていることの中に
よい資質を 発見しよう
発見され 認められた資質は
更に 伸びようとするでしょう



自己愛



髪の長い女

よい子だね

心に 平安があれば

親切な思いが 湧いてくるでしょう

夢と 希望が 湧いてくるでしょう

知ることや つくることが 喜びとなるでしょう

心が 健やかな子は

建設的な発想が 湧いてくるでしょう

状況を正しくとらえ 問題をよりよく解決する

努力が できるでしょう

このような子は よい子だね といわれるでしょう

意地悪する子は 心の中に 憎しみがあるでしょう

破壊的な子は 心の中に 恨みがあるでしょう

悪さをする子は 心の中に 不満があるでしょう

自発性の弱い子は 心の中に 心配があるでしょう

やる気の無い子は 心の中に 失望があるでしょう

このような子は こまった子だね といわれるでしょう

心配や不満を取り除いて よい子に育ててあげましょう

誉めことばに誘われて

この子が

心の奥に うすうす感じているものは何でしょう

この子の

心の奥から うすうす兆しているものは何でしょう

それが 何であるか

まだ 言葉ではつきりと言えなくとも

いろいろな機縁にふれて

やがて 少しずつ 明らかになるでしょう

興味や関心や持続的な思いとして

やがて 現われてくるでしょう

この子を いとおしく思い

この子に 敬意を払えば

この子のすることなすことに

誉めことばを かけることができるでしょう

誉めことばに 誘われて

心の奥から

この子の 本当のよさが

光を放って 現れてくるでしょう

甘えの足りない子どもがいます

ちいさいときに お母さんにたっぷり甘え
十分な愛情を受けた子は
心の奥に満足感があるでしょう
そんな子は 思い遣りの深い子になるでしょう

ちいさいときに お母さんに甘えられなかった子は
心の奥を寒い風が吹いていて
困難に出会うと すぐに挫折するかも知れません

甘えの足りなかった子は
心の奥の寒い風に耐えかねて
落ち着きがなかったり 爪を噛んだり
意地悪したり ずるをしたりするようです

甘えの足りなかった子は
明るく屈託なく見えても 心の奥は寂しいのでしょ

寂しい子は

平凡で 地道で もっとも大切なことに努力ができないようです
心の奥の寂しさを紛らわすために
いろいろな事をしてかしては 人さわがせをするようです

こんな子を癒すには 母性愛がもっともよい薬のようです
知性は指図し 批判し 裁くけれど
母性は受け容れ 許し 甘えさせてくれるから

ちいさいときが大切です

言葉をかけられなかった赤ちゃんたち

第二次大戦中のこと、ある国でこんな実験がなされたと聞いたことがあります。

戦争孤児の赤ちゃんを病院に収容して二つのグループに分け、一方のグループには普通の母親が育てるように言葉をかけ、あやし、ミルクを与え、おむつを清潔にし、お湯をつかわせ、愛情豊かに育てました。

このグループの赤ちゃんたちは、にこにこしたり、いやいやをしたり、豊かな感情の動きがあって元気に育ちました。

もう一方のグループには、身のまわりの世話とミルクを与えることは同じですが、あやしたり、言葉をかけたりすることは一切禁じられていました。人間的なかわりがなく、赤ちゃんの要求に応じてあげたり、共に喜んであげたり笑ってあげたりすることがなかったので、このグループの赤ちゃんたちは感情の動きが乏しく、だんだんと元気がなくなっていき、皆死んでしまいました。

今日、学校教育では、カウンセリング・マインドを大切にしております。つまり、子どもの気持ちや願いをよく理解して、それをできるだけ受け容れ、また共感してあげるように努めています。そして「ああしなさい」「こうしなさい」「あれはだめ」「これはだめ」という命令や否定の言葉や態度をできるだけひかえる方法をとっております。勿論、集団を扱い学習効果を上げていくためには、指示する言葉を言わない訳にはいきませんが、いけないことは「いけない」と言わない訳にはいきませんが……。

大人のこうした愛情と忍耐によって、子どもたちが安心感を持ち、生き生きとして自発性や創造性を発揮して、それを伸ばすことができるように期待をしているのです。

ご家庭でも実践してみてください。愛情に満たされて幸福な子は生き生きとして豊かな人間性の持ち主となり、物事の善悪をよくわきまえた人になるでしょう。

こんなおじいさんがおりました

96才で亡くなった おじいさんがありました

この人は 5才の時に母親が病死し
その後 継母に ひどくいじめられました

家に いたたまれず
母の実家へ 4里の道を歩いて逃げてきました
まだ小学校へあがる前でした
成人して お嫁さんをもろうまで そこで育ちました

一生の間 折にふれて
実の母が 恋しく思われました
96才になっても
5才のときに亡くなった母が恋しいのでした

さて 時代は激動の中にあります
子どもたちも 競争社会への不安があるでしょう
集団や新しいことがらへの適応の困難もあるでしょう
日々の勉強や友だち関係での悩みもあるでしょう

こんなとき 母なるものの存在が
子に 平安を与えるでしょう

子どもの絵

子どもは

自分が知っていることを 描きます
自分が理解していることを 描きます
自分が思っていることを 描きます
自分が感じていることを 描きます
自分の方法で 描きます

子どもの絵には

自然のリズムがあります
自然の秩序があります
心の奥深いところで
自然の摂理とつながっているように感じられます

ピカソが「子どものように描きたい」と言ったといわれるのは
ほんとうかも知れません

小さい子どもは この世を信頼しきって生きています
無垢の心がむき出しのまま 無防備に生きています
だから
何でも受け容れて 何でも吸収してしまいます
心に感じたままを 表現してしまいます

子どもの絵は発明に満ちています
むずかしいことも 自分で表現方法を発明して
何とか表現してしまいます
その発明の仕方の中にその子らしい心が表れていて
それがまた素晴らしいです

母性本能

赤ちゃんが生まれて 0才から3才ぐらいまでは
育てるのに とても手間がかかるし 格別の保護が必要です

そして

この短い期間が 人間の成育にとって
最も大切な時期だといわれています

母親は この期間

子どものことをたえず気にかけて 面倒を見 かわいがって育てます
その間に 母性本能が成熟して 本当の母親になるようです

こうして母親の愛情を十分に受けて育った子は
満足感や幸福感があり
おだやかな心や親切な心をもっているようです

一方 十分な愛情を受けなかった子の中には
その欲求不満やさびしさが後々まで続き
理由もなく いじめたくなり
盗みたくなり 破壊したくなり
暴力をふるいたくなる子もいるようです

だだをこねるぼく

おかあさん

ぼくが どうして だだをこねるか わかる？

それはね

ぼくが だだをこねなければ ぼくの 思いどおりに ならないから

ぼくが だだをこねれば

「しょうがないわね。」といいながら

ぼくの 思いどおりに してくれるから

おかあさん

ぼくが どうして だだをこねるように なってしまったか わかる？

それはね

そうしなければ ぼくのねがいが かなえてもらえないから

おかあさんが ぼくのねがいに むとんちゃくだから

でも

だだをこねて ねがいが かなっても

ぼくは ほんとうは 満足していないんだ

だって

ぼくが 心から望んでいることは そんなことじゃ ないんだもの

すずめのおやこ

子すずめは まだ 羽根が十分に発達していないので
じょうずに飛べないようです
ちょん ちょん ちょん と歩いています
母すずめに追いつこうとして 歩いているようですが
まわりのことにも気をとられて 意識が集中していません

母すずめは 1メートルほど先の繁みの方へ わざと身を隠して
子すずめが 一人でどうするかを 試しています
しばらくして 子すずめが 途方にくれているようすなので
母すずめは チチッ と鳴いて パッ と飛んで
子すずめの前に舞いおりました

子すずめは 首を伸ばし うれしそうに 顔を母すずめに近づけました
母すずめは くちばしで チュッとキスをしてやりました

そうして また 母すずめは 鳴きながら
こんどはさっきと反対の方へ 足早に歩いて
1メートル 2メートルと 離れていき
また 繁みの中に姿を隠しています

子すずめは また一人になったとまどいと 母を探したい気持と
自立する気持と 複雑な気持のそぶりです

母すずめは 子すずめを 一人前にしようと
巣から連れ出しているのでしょう

私は 夏の夕暮れどき この情景を 感動をもって見ていました

信頼と愛情の継承

物質文明・機械文明の発達による
便利さと忙しさの陰で
信頼と愛情のセンスは
薄れてゆくように感じられます

信頼と愛情の砦としての家庭で
豊かな愛情体験によって育まれたものが
この子が今後進む
すべての道に通じていくでしょう
この子が今後出会う
すべての人々に浸透していくでしょう

親から子へと流れる信頼と愛情の継承が
未来社会の支えとなるでしょう
「困った子」というのは
愛されることが足りなかった子なのでしょう
心に幸福感や満足感が 足りなかった子なのでしょう

おだやかな心をもっている子
幸福な心をもっている子は
未来社会を支える人となるでしょう

一人の母は百人の教師にまさるといわれます

幼稚園や学校や塾に通わせておけば よい子になる
というものではありません

幼稚園や学校や塾で学習する力を 心の底で支えているのは
親の愛情です

この支えなくしては どのような勉強も身が入りません

だっこされて育った子 おんぶされて育った子は
よい子になるといわれます
豊かな愛情 切なる愛情に 支えられている子は
満足感や安心感があります

そして その愛情に報いようとします

その結果

正しいことに向かって努力ができます
建設的な行動ができます
勉強への努力ができます
よろこんで おてつだいができます

自己否定に陥り自暴自棄になり 破壊的な行動にはしる子は
自分一人でそうなったものではありません

幸福で喜びに溢れる子も
自分一人でそうなったものではありません

子どもは日々成長していきます

きょうの子は きのうの子ではありません
子どもは日々成長していきます

子どもは 家族や友達と心をかよわせる中で成長していきます
日々の学習や委員会活動などの 努力や責任を果たす仕事をとおして
成長していきます
運動会や林間学校などの 大きな体験をとおして
成長していきます

この成長は なにゆえに可能なのでしょうか

それは その子の中に本来 その資質・能力があるからでしょう
無いものは あらわれてこないでしょう
有るものは 機縁にふれて あらわれてくるでしょう

いま 子ども時代を生きている者も ほどなく おとなになるでしょう
そして すぐれたひととなる者は多くいるでしょう

そうであるならば 子どもに敬意を払わねばなりません

子どものよさが 十分に表れるように
その子のよさを見だし 引き出すことにつとめましょう
自由と寛容のうちにモラルが育ち よさが表れるように
かかわり方を工夫しましょう
子どもは日々成長することが喜びです

著者プロフィール

金子 典義 (かねこ のりよし)

1935年に生まれる

1960年 横浜市立小学校勤務

1981年 横浜市教育委員会研究室勤務

1988年 横浜市立権太坂小学校副校長勤務

1991年 横浜市立大正小学校校長勤務

1994年 横浜市立市沢小学校校長勤務

1997年 定年退職 横浜市立北山田小学校コミュニティスクール勤務

2000年 横浜市立北山田小学校コミュニティスクール退職

〈彫刻歴〉

1961年 「横浜彫塑研究会」の前身「フォルム」に入会。井上信道先生に師事、今日に至る

1965年 横浜美術協会会員となる

1975年 自由美術協会会員となる

1976年 第11回神奈川県美術展で準大賞受賞

1977年 「現代彫刻20人展」(玉川高島屋)に選ばれる

1996年 自由美術協会を退会

〈評論〉

1983年 「美術教育と人間形成」

1985年 「美術教育と人間形成(その2)」

こすもす文庫 ⑩

子育ての原理

愛を食べて生きるもの

発行 2006年11月1日

*

発行者 こすもす文庫代表 戸張満江

*

発行所 戸張会計事務所

〒213-0002 川崎市高津区二子 5-1-15

電話 044-833-4361 (代)

FAX 044-844-6035

ホームページ URL : www.tobari-kaikei.com

キーワード検索 : 戸張会計・tobari-kaikei・
とばりかいけい・トバリカイケイ

*

定価 800 円 (税別)



前頁へ



次頁へ

目次に戻る

戸張 公認会計士 事務所

税 理 士 事務所

税務・経営・監査
こすもす簿記システム(当社開発自計用簿記)導入指導

〒213-0002 川崎市高津区二子 5-1-15 高津駅 3分
TEL 044-833-4361(代) FAX 044-844-6035
HPアドレス(URL) : www.tobari-kaikei.com

こすもす教室

パソコン、生花、茶道、料理、英会話教室などにご利用いただけます。午前、午後、夜、曜日別月契約となります。

所在地：川崎市高津区二子 5-1-15 高津駅 3分
お申し込みは戸張会計事務所：電話 044-833-4361

こすもすホール(貸ホール)

www.cosmos-shop.com/hall1/

ダンス、バレエ、リトミック、気功、ピアノ、カラオケ、コーラス、パソコン教室、簿記教室、料理教室などにご利用いただけます。
午前、午後、夜、曜日別月契約となります。

ひさもと：川崎市高津区久本 2-2-1 洗足学園手前
さかど：川崎市高津区坂戸 1-6-9 イトーヨーカ堂先
お申し込みは戸張会計事務所：電話 044-833-4361

スパゲッティとドリアの店 ファーム

川崎市高津区久本 2-2-1
洗足学園手前交差点角
TEL 044-865-8118
各種パーティ、ご宴会のご予約を承ります。



前頁へ



次頁へ

目次に戻る